2023 年度　自己評価報告書

評価対象期間　　自：2023 年４月１日

至：2024 年３月３１日

評価基準日　　2024 年４月１日

学校法人栗岡学園

阪奈中央看護専門学校

評価項目の達成および取組状況

1　教育

2　施設・設備

3　学生サービス

4　教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：副校長、看護学科教務主任、准看護科教務主任

教育分野　看護

1　教　　育

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
1．カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	○両学科とも令和４年４月より新カリキュラムを運用している。 〇教育理念、教育目標を土台とし、教育目標を示し、カリキュラム構成を行っている。また、教員への周知を行っている。	〇「教育理念」を各学年の教室・廊下に掲示し、常に意識してもらいやすいようにした。 〇機会があれば勉強会に参加している。	5　4　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分 〇	〇学生及び教員に対して、教育理念や目標を引き続き周知していく。 〇カリキュラムの運用方法について、引き続き教務会等で検討していく。 〇看護師不足を補うためにも、准看護師の役割を理解し、准看護師教育の意義を、更に内外に知らしめる必要がある。 〇教員に対しても更なる教育目標の理解・共有を図る。
2．カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	〇地域を基本とした多くの場での活動を求められることを考慮し、新カリキュラムでは看護実践力やコミュニケーション力の向上を目指す内容とした。	〇姉妹校への訪問、見学ができた。特典などをうまく利用し、引き続き進学する学生を増やす必要がある。 〇2023 年度、准看護科の進学率は 56%であった。 〇コロナの影響でアルバイトに制限があり、経済的負担から進学を見送る学生がいた。 〇准看護師の役割として、観察と報告を重視すると共に、患者体験から患者の気持ちを慮る看護技術の習得に務めている。 〇准看護科のカリキュラムに看護過程が含まれず、就職が限定される場合がある。引き続き関連病院と話し合いをしていく必要がある。	5　4　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分 〇	〇卒業後に就職した職場と連携を取りながら、今後も卒後研修にも協力したい。 〇准看護師の働き方や病院での位置付けを明確にし、学生に対しても理解を求める取り組みが必要となる。 〇准看護科の学生には、引き続き看護師の資格取得を勧めていく。また、1 年生の早いうちから、姉妹校の見学説明会を行う。 〇引き続き、准看護師の職場ニーズの把握に努めていく。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
3．授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	○全学年新カリキュラムで運用している。 ○コロナ等への対応について、実習病院、実習施設等の状況を入れて考えた。	○昨年度はコロナへの対応に追われたが、今年度は概ね通常の講義を行うことができた。 ○欠席者にはリモート講義に切り替えるなど、柔軟な対応ができた。 ○リモート講義などで調整し、全員年度内に授業を収めることができた。	5　4　3　2　1 十　　ふ　　不 　←　つ　→　十 分　　う　　分 　　○	○進度調整と講師依頼の時期なども引き続き検討していく。 ○新旧カリキュラムについて混同しないように取り組む。
4．シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	○作成している。 ○授業内容は学生便覧に明記している ○カリキュラム改正に合わせて担当科目の見直しを再度行い、漏れや重複がないようにした。。	○新カリキュラムのシラバスは講義依頼時に一部修正し、より分かりやすく変更している。 ○授業内容は教員・学生双方が分かるように明示しているが、未だすべての配布には至っていない。	5　4　3　2　1 十　　ふ　　不 　←　つ　→　十 分　　う　　分 　　○	○引き続き、非常勤講師にシラバスについて説明し、教育内容に漏れの無いようにする。 ○学生への冊子配布の実現 ○准看護師に求められる実践能力の育成に則った内容であるか、教員間で意見交換し、そこにより即した内容となるよう、改善に努める。
5．カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	○看護学科では、前後期終了後、教務会での議題として見直しを行っている。 ○准看護科でも、前後期終了時や問題提起があった場合などに、教務会議で時間数も含め見直しを行っている。	○新カリキュラムにつき、今年度は一層の見直しが必要。 ○年度末に短時間で見直しを図っているため十分とは言えないが、授業担当者からの意見を取り入れている。	5　4　3　2　1 十　　ふ　　不 　←　つ　→　十 分　　う　　分 　　○	○新カリキュラムの運用に関しては、教員や講師と協議し慎重に進める。 ○今後の動向や情報を元に、教務会議等で見直しを行っていく。 ○カリキュラムについての話し合いを設ける会議を定期的に行う。
6．テキストや教材をどのような基準で採用していますか	○2021 年度より電子テキストを導入している。 ○教育目標や教科の内容に合わせ、学生により分かりやすいと考えられるテキストを採択している。学生の経済的負担に配慮して精査した。 ○講義での使いやすさや、講師との話し合いも踏まえて決定している。	○講義内容により、副読本の活用及び動画利用などの工夫をしている。 ○あまり活用していない副読本があったため、担当講師に相談の上変更し、学生の経済的負担に配慮した。 ○使用頻度の少ないテキストを削ることにより、使用しないテキストの購入には至らなかった。	5　4　3　2　1 十　　ふ　　不 　←　つ　→　十 分　　う　　分 　○	○カリキュラム改訂や新刊本・改訂本など注意深く情報を得、ICT 教育も含め今後も教務会議等で見直しを行っていく。 ○学生の反応や意見を考慮し、ICT 導入による教育を一つの方略として活用する。 ○テキストの使用状況を確認し、内容と合わせて再検討し、学生への冊子配布につなげる。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
７．目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	○評価は終講試験だけでなく、課題や実技などを踏まえ、担当教員が認めた方法で行っている。 ○３０時間を超える授業については、中間・終講の２回試験を行い、その都度合格まで再テスト等を行っている。 ○実習評価は評価表に沿って、教員及び実習指導者が合議して評価している。また、教務会でも討議し決定している。 ○准看護科実習においては、指導者評価と教員評価を照らし合わせ、点差が大きい場合は合議する。それ以外は指導者と教員評価の平均値とする。 ○准看護科の臨地実習においてはルーブリック評価を取り入れた。	○成績不良者及び未成年者に対して、保護者との連絡を密にしている。家族の協力があることで、成績上昇がみられた。 ○中間試験があることにより、学生に勉強の必要性を意識化させることが出来、退学・休学を最小限に抑えている。 ○ルーブリック評価を取り入れ、より主体的に今の自分のレベルを学生自身が確認しながら評価することで、次なる課題を見出しやすくなった。母子看護実習のみ、従来の評価方法を続けているため、見直す必要がある。	５　４　３　２　１ 十　　ふ　　不 　←　つ　→　十 分　　う　　分 　　○	○成績評価について、ベースとなる学習を教員間で行なっていく。 ○均質的な実習評価を目指し、実習調整者を中心とした協議が必要である。 ○成績不良者及び未成年者に対しては、引き続き保護者との連携を図っていく。 ○母子看護実習の評価方法も、実習目標とともに見直し改善を図る。
８．学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	○学生の理解度に合わせ、各教員が授業形態や授業方法を選択している。 ○担任と非常勤講師で、問題を早期解決すべく話し合いを行っている。 ○非常勤講師への授業アンケートの一部開示を行っている。 ○授業中の姿勢などで、関心を持っているかを判断している。	○基礎学力の差が大きく、学習習慣なども生活環境による違いが大きい。授業や試験の結果を受けて、早めに対処するようにしている。 ○臨地実習の指導などに時間がかかり、授業方法等について研究する時間がとれない。	５　４　３　２　１ 十　　ふ　　不 　←　つ　→　十 分　　う　　分 　　○	○研究授業や公開授業などを行い、教員間でも検討していく。 ○両学科とも、常勤教員へのアンケート開示を行っている。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
9．学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	○国家試験対策では、教員と学生による国家試験対策委員会が活動している。今年度も、例年の補習対策に加え、各学年委員会が自主的に決定し、対策を実行した。 ○資格試験対策においても強化学習などの対策を行った。2年次に資格試験対策委員を立ち上げ、学生主体の学習を毎朝行った。また、成績不良者を対策委員のメンバーに入れることで、自主的に学習に参加できるようにした。 ○成績不良者に対する補習を、3年次の夏期休暇および国家試験前に実施した。 ○入試合格者に対して入学前教育プログラムを導入し、事前課題に取り組んでもらっている。入学後には確認テストも行い、基礎力の定着や学習態度なども判定している。	○国家試験対策委員会「ナースになるぞ委員会」を継続的に運営している。学生と教員が定期的に会を開き、クラスに持ち帰った国試対策を学年に応じて実施している。学生の主体的な国家試験対策が維持できている。 ○在学期間を、有意義に学習に集中する期間であることを学生に対して指導している。 ○成績に個人差があったが、全員合格を目指し学生同士自主的にサポートしあうことができ相乗効果を得られた。結果、今年も合格率100%に繋がった。	5　4　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分 ○	○引き続き、成績や授業態度に問題のある学生に関しては面接を行い。できるだけ早期に行動の修正ができるよう取り組む。 ○資格試験対策の効果をさらに向上させるべく、時期や方法について継続的に検討する。 ○実習と資格試験対策が関連していることを意識づけていく。 ○問題がある場合はその都度教務会で協議する。 ○基礎力リサーチの結果を用いて、注意の必要な学生には早めに対応していきたい。
10．マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	○担任を中心に、看護学生としてのマナーや身だしなみを都度指導している。 ○学生のプライベートの部分までケアし、何かあったときには学生、家庭、学校の三者で話し合うようにしている。 ○実習では「報告・連絡・相談」が必要不可欠であり、そのための教育もしている。 ○看護者の倫理綱領などを用いて指導している。 ○学内のみならず学外での行動についても指導が必要である。	○学外からの指摘があった場合すぐ対応している。 ○体調管理など含め自分の事が自分でできるトレーニングが未だ不十分な学生がいる。そうした学生は身だしなみも乱れがちである。 ○家庭環境や成育歴により指導が必要な学生に対し、多くの時間を必要としている。特に身だしなみ（服装・髪型）や言葉づかいについての指導が多い。 ○全教員が常時指導を行っているが、行動に変容のない学生もいる。	5　4　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分 ○	○マナー・倫理観の学習を深める必要がある。 ○学生指導の内容が複雑化しており、対応した教員のメンタル面でのフォローも必要である。 ○今後も、公認心理師の先生と連携していく。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
11．教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	○夏休み等の限られた期間内で、研修に参加している。 ○研修に参加した教員に、会議での報告や資料の回覧等行ってもらっている。 ○一部、共同学習を取り入れている。 ○新しい教育方法について学ぶ機会があり、各教員積極的に取り入れている。	○各教員に、専門領域に関する学会や研修会への参加を呼び掛け、年２回の研修会参加を促せた。だが学内実習や講義等で研修に参加しにくい状況であり、研究も同様に時間的余裕がなく実施できていない。 ○個別指導に費やす時間が非常に多い。それぞれの生活環境が大きく影響してると考えられる。 ○人員が少なく、一人の教員に対する役割が大きい。 ○実習指導での担当学生数が非常に多く負担が大きいためか、教育方法について学ぶ姿勢が不足している教員もいる。	5　4　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分 ○	○教員の自己及び相互研鑽のためにも、研修に参加できるような体制作りが必要。奈良県看護協会主催の教員継続研修の受講を進め、自己研鑽に務める。 ○教員が、カウンセリングなど学生指導に活かすことのできる研修を計画している。 ○研修会に参加した教員には伝達講習を行ってもらいたい。 ○実施している新しい教育方法について、教員間での共有、研修会参加を積極的に進める。 ○教員同士で授業内容の吟味・相談などを出来る環境作りが必要。
12．学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	○終講時に授業評価や卒業時アンケートを行い、その結果を受けて各教員が授業内容や方法改善に取り組んでいる。	○教員自身は結果を受け次年度に活かすよう、前向きに取り組んでいる。検討を要する場合は教務会で協議している。 ○学校関係者評価において、授業評価の充実が指摘されたが、未だ非常勤講師に対して授業評価が十分に生かされていない部分もある。 ○授業評価をオンラインに変更したため、評価をする学生が減少した。	5　4　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分 ○	○授業評価の内容について引き続き検討していきたい。 ○実習だけでなく講義においても目標の到達レベルチェックを行い、終講試験と併せて理解度の確認をしていく。

2　施設・設備

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1．教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○設置基準に基づいている。 ○面談スペースが少ないため、利用が重ならないよう調整している。	○昨年度設置いただいた空調は良好に稼働している。 ○校舎の建設後 20 年以上が経過し、設備等に不具合が生じ始めている。 ○大きな学生向けの机や椅子がない。机・椅子の老朽化。 ○学生へのトイレ掃除の指導が難しい。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○体格の良い学生向けに、大きいサイズの椅子と机を準備したい。 ○設備などの計画的なメンテナンスや新規購入を進めたい。 ○自転車置き場に屋根を設置したい ○備品の検討が必要。
2．図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	○放課後の自主学習など学生の活用度は高い。 ○卒業生がよく学校に来る。関連病院の看護師の方も、研究発表の資料作りで来校される。 ○図書は専門分野ごとにある程度充実しているが、古いものもある。	○図書室のコピー機を刷新し、カラーコピーも対応可となった。 ○学生や卒業生が使用しやすい環境である。 ○所在不明な図書が出ないよう、書庫を時間利用としている。 ○図書室の本を検索して、ケーススタディや実習のまとめ発表に活用している。 ○蔵書検索用のパソコンが老朽化しており、利用者も少ない。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○新書の購入の推進
3．実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○基準に規定された通りで適切である。年に 1 回実習室の備品点検を行っている。	○タオル・シーツ・寝衣などの補充をしている。 ○必要に応じ、物品購入を行っているが、22 年目を迎え、買い替えが必要となってきている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○段階を追って、新規購入が必要。 ○備品点検時に備え、新規物品購入時に、番号と年月日を入れる。
4．最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	○一人一台パソコンを持ち、業務を行っている。 ○各教室の情報機器が古くなり、故障やトラブルがあるが、機器の買替により対応している。	○パソコン室のプリンターが 1 台しかなく、授業等で支障をきたしている。 ○ソフトウェアのバージョンが古く、DVD 視聴や PowerPoint の読み込みに難がある。 ○プロジェクターのない教室があり、セッティングに手間と時間を要する。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○常に最新の状態を保てるよう、定期的に点検していきたい。 ○学籍管理ソフトや、学生への連絡アプリの導入を検討したい。 ○パソコン室のパソコンを新しいものにする。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
5．ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	○学園の学生寮が設置されており、学生の入寮が可能である。	○入居する学生には、管理規則を遵守するよう指導している。	5 4 3 2 1 十分 ← ふつう → 不十分 ○	○希望者が入寮できるようにする。 ○寮生への管理規則遵守を徹底する。
6．体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	○関連施設の体育館を年に数回授業で利用している。	○関連施設のバスで送迎していただけるため、利用しやすい。	5 4 3 2 1 十分 ← ふつう → 不十分 ○	○今後も積極的に体育館を使用していきたい。

3　学生サービス

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1．クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	○担任１名、副担任 1～2 名で学生指導を行い、問題がある学生については教務会議で協議している。 ○必要な場合は教務主任が保護者と連絡を取り、情報交換をしている。 ○成績や授業態度等問題のある学生には、面接を随時行っている。	○教員数の不足 ○放課後に学生からの相談が多く、残業となり、身体的・精神的な負担が大きい。 ○准看教育に興味を持つ人の確保が非常に困難 ○准看護科は年齢層が高く、自主的に勉強できる学生が多い。二十歳未満の学生は、こちらから働きかけないと学習が定着しない。	5 4 3 2 1 十分 ← ふつう → 不十分 ○	○指導が必要な学生の増加で教員の対応時間が長くなるため、他の業務に支障をきたさないよう業務分担が必要。その際、担任の役割・考え方を共有することが大切である。 ○様々な課題を抱えた学生が多いため、担任に限らず誰もが学生に関わり共有する必要がある。
2．学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	○教員が学生と個別に対応していることもあるが、公認心理師と連携を取り、相談しながら対応している。必要時、公認心理師と定期面談も行ってもらう。	○公認心理師が授業も担当してくださっており、学生にとっては安心できる環境である。	5 4 3 2 1 十分 ← ふつう → 不十分 ○	○少なくとも週２回のカウンセラー常駐が望ましい。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
３.教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	○休憩時間にはラウンジで友達と歓談している場面が良く見られる。 ○感染対策でラウンジでの飲食は禁止している。 ○グループワークや自習のスペースが不足している。	○休憩時間、ラウンジに３クラス重なると狭い。 ○歓談できるスペースが少ない。	5 十分 ← 4 ← 3 ふつう ○ → 2 → 1 不十分	○スペースに限りがあるため、効率の良いラウンジの使い方を引き続き検討する。
４．食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	○弁当、パンの販売があり、学生は教室で食事をとっている。売店・食堂はない。 ○今年度も、食事は教室内で黙食するよう指導している。	○弁当やパンの販売は好評で、学生もよく利用している。	5 十分 ← 4 ← 3 ふつう ○ → 2 → 1 不十分	○関連病院の食堂利用についても引き続き検討されたい。
５．学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	○関連医療法人の奨学金制度があり、学年にもよるが１クラス 2～7 人程度が利用している。	○給付型奨学金の要件や採用決定時期が厳しく、関連施設への就職に繋がらない恐れがある。	5 十分 ← 4 ← 3 ふつう ○ → 2 → 1 不十分	○完全給付型奨学金制度への変更が望まれる。
６.その他	○京阪寝屋川市駅から JR 忍ヶ丘駅経由で、学園の無料スクールバスが運行されている。 ○教員年齢層の高齢化	○最寄駅である近鉄生駒駅からのスクールバスがない。	5 十分 ← 4 ← 3 ふつう ○ → 2 → 1 不十分	○教員の確保が課題である。 ○近鉄生駒駅からのスクールバスを検討していく。

４　教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

〇カリキュラム改正後は、教育理念や教育目標、卒業時の到達目標、看護師教育の技術項目と卒業時の到達度など、全教員が参加して再確認を行った。授業科目に関わる教育の姿勢も変化するのではないかと考えている。

〇新カリキュラムに則りながらも、経験値による教授に偏らない、新しい教育方略をもっと柔軟に取り入れていく必要がある。

〇ティーチングからコーチングへの教育方略の変更や、ICT 教育の取り組みが全教員に浸透するよう、今後も教務間での情報交換や勉強会の参加に務めていく。

〇看護教育における頭作りとともに技術教育にも力を入れ、「気持ちの良い看護」が提供できるよう引き続き学び、学生に伝えていきたい。

〇感染対策として検温・行動記録・手洗い・マスクとゴーグル・アクリル板の設置・食事のとり方、掃除の方法・教室内や机、椅子等の消毒など、多岐に渡る対策を現在も毎日行っている。

〇感染対策を踏まえつつ、臨地実習施設と相談を行い、意識と技術の高い学生を育てていきたい。

〇一人でも多く関連病院に就職してもらいたい。引き続き医療法人和幸会と学校法人栗岡学園が連携し、目的が達成できるよう協力していきたい。

〇少子化の影響もあり、入学志願者が減少している。学校の強み・弱みを再度検討し、魅力ある専門学校作りをしていかねばならない。

〇広報の面では、個別相談の回数を大幅に増やし、積極的に対応している。

〇業務内容・看護技術・学生に関すること等について、教員同士が連携し、互いの質を高めていきたい。

〇より時代に合った学校整備（自転車置き場の屋根など）を検討していく必要がある。

〇入学前から個性やキャラクターを把握し、学生が充実した学生生活が送りながら成長できるよう支援し、進学相談や就職相談に対するアドバイスも行っている。

〇学校全体で、キャリアアップを含めたキャリア支援をしていく。

〇卒後のサポートも手厚く行っている。卒業生にも本校で学んでほしい。

〇学園全体でエンロールメントマネジメントに取り組み始めた。

〇欠席をする学生が増加傾向にある。

〇他の看護学校が新設され、実習施設から受入を中止される場合も出てきた。